



写真1 明治生命館（旧三菱第2号館）

## 明治生命館（旧三菱第2号館）

「明治生命館(旧三菱第2号館)(写真1)」は、1934年(昭和9年)3月に、3年7ヵ月の歳月をかけて竣工した古典主義様式<sup>※)</sup>の建造物である。その後、建設当時のデザインを大切に守り続け、1997年(平成9年)に昭和の建造物としては初めて、国の重要文化財に指定された。

皇居外苑に面し、壁面にそびえ立つ列柱が圧倒的な存在感を放つ。柱頭部分(写真2)には、美しい葉型をもつアカンサスの葉飾りが施されている。アカンサスは、ギリシャ建築などの装飾モチーフに古くから用いられ、他にも玄関のブロンズ製扉や1階店頭営業室の天井に見ることが出来る。

2022年には、三菱創業150周年記念事業の一環として、館内1階部分に静嘉堂文庫の展示室が移設され、「静嘉堂@丸の内」としてオープンした。静嘉堂文庫は、1892年に三菱第2代社長である岩崎彌之助によって世田谷区に創設された。国宝7件、重要文化財84件を含む、およそ20万冊の古典籍と、約6,500件の東洋古美術品を収蔵している。創設当時から丸の内に美術館建設を願っていた岩崎彌之助の思いが130年の時を経て叶った。今なお歴史を紡ぐこの重要文化財建築の中で国宝、重要文化財をはじめとする名品を見ることが出来る。

※)古代ギリシア・ローマの端正・簡素な様式を範とする、主に17世紀の芸術傾向。美術においては輪郭の明快さ、形態と空間の統一と調和、静的な均整美が特徴。

<参考>

明治生命館

<https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/meiji-seimeikan/>

静嘉堂文庫美術館

<https://www.seikado.or.jp/>



写真2 アカンサスの葉飾りを纏った柱頭部

次回夏号からは、新事務所周辺の  
「近隣散策」をお届けします。